

## 地球温暖化問題に関する県民アンケート結果

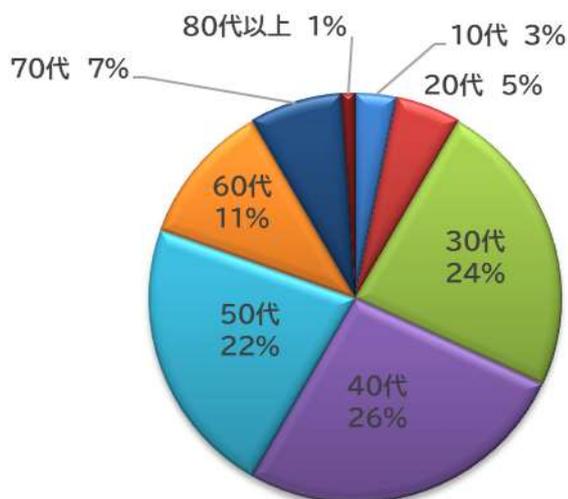
調査目的：県では令和3年3月に策定した「第2次長崎県地球温暖化（気候変動）対策実行計画」を令和7年度に見直すこととしています。このアンケートは、地球温暖化に関する県民意識を調査し、計画に反映することを目的に行うものです。

調査期間： 令和6年8月26日～9月13日（19日間）  
調査対象： ながさきWEB県政アンケート全モニター（349名）  
回答状況： 回答者276名（回答率79.1%）  
調査担当課： 県民生活環境部 地域環境課

### ■回答者の属性

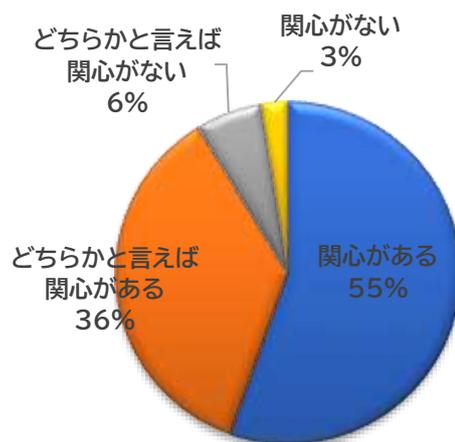
#### 【年齢構成比率】

年齢	人数	構成比
10代	9	3%
20代	14	5%
30代	65	24%
40代	73	26%
50代	61	22%
60代	31	11%
70代	20	7%
80代以上	3	1%
合計	276	100%



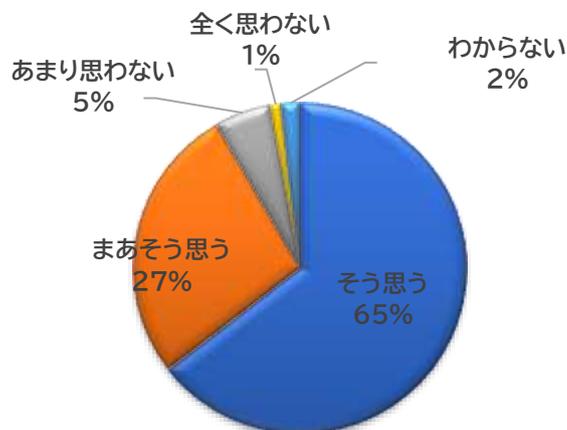
問1：あなたは、地球温暖化問題について関心がありますか。(1つ選択)

選択肢	回答	構成比
関心がある	153	55%
どちらかと言えば関心がある	99	36%
どちらかと言えば関心がない	17	6%
関心がない	7	3%
合計	276	100%



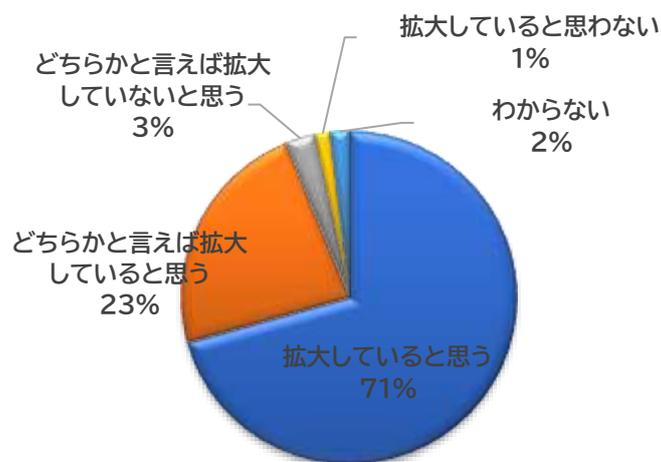
問2：あなたは、地球温暖化問題を差し迫った問題だと思いますか。(1つ選択)

選択肢	回答	構成比
そう思う	178	65%
まあそう思う	75	27%
あまり思わない	15	5%
全く思わない	3	1%
わからない	5	2%
合計	276	100%



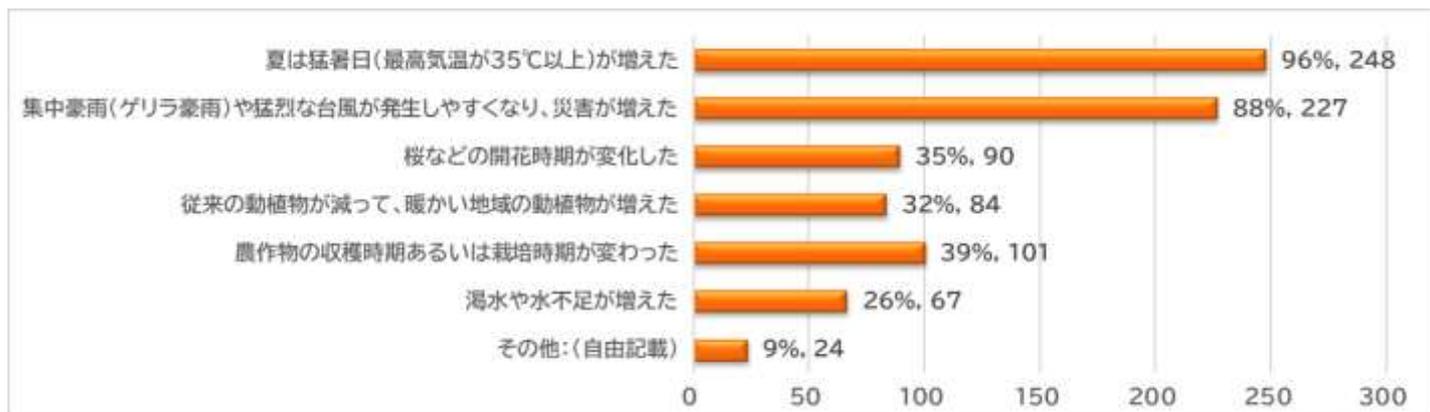
問3：あなたは、近年、地球温暖化の影響が拡大していると思いますか。(1つ選択)

選択肢	回答	構成比
拡大していると思う	195	71%
どちらかと言えば拡大していると思う	64	23%
どちらかと言えば拡大していないと思う	8	3%
拡大していると思わない	4	1%
わからない	5	2%
合計	276	100%



#### 問4：あなたが、地球温暖化の影響が拡大していると思う理由は何ですか。(複数選択可)

(問3で「拡大していると思う」、「どちらかと言えば拡大していると思う」と回答した259名が回答)



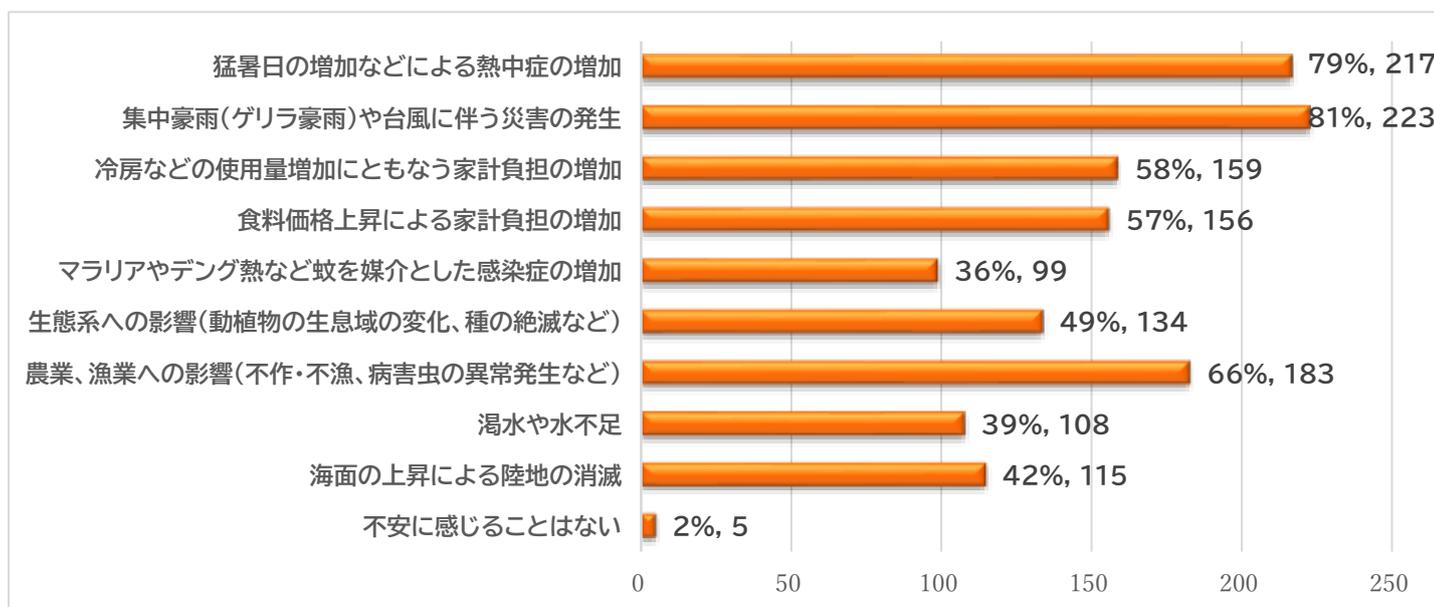
選択肢	回答	割合※
夏は猛暑日(最高気温が35℃以上)が増えた	248	96%
集中豪雨(ゲリラ豪雨)や猛烈な台風が発生しやすくなり、災害が増えた	227	88%
桜などの開花時期が変化した	90	35%
従来の動植物が減って、暖かい地域の動植物が増えた	84	32%
農作物の収穫時期あるいは栽培時期が変わった	101	39%
渇水や水不足が増えた	67	26%
その他:(自由記載)	24	9%

※回答者259名に対する割合

<その他の主な回答>

- ・春、秋、冬が短くなった
- ・四季を感じる事が少なくなった
- ・魚が獲れなくなった、魚の産地が変化した
- ・県内の天候が熱帯地域に似てきた
- ・氷山が減少している
- ・農作物の品質低下

問5：あなたは、地球温暖化の影響で不安に感じることは何ですか。（複数選択可）



選択肢	回答	割合*
猛暑日の増加などによる熱中症の増加	217	79%
集中豪雨（ゲリラ豪雨）や台風に伴う災害の発生	223	81%
冷房などの使用量増加にともなう家計負担の増加	159	58%
食料価格上昇による家計負担の増加	156	57%
マラリアやデング熱など蚊を媒介とした感染症の増加	99	36%
生態系への影響（動植物の生息域の変化、種の絶滅など）	134	49%
農業、漁業への影響（不作・不漁、病害虫の異常発生など）	183	66%
渇水や水不足	108	39%
海面の上昇による陸地の消滅	115	42%
不安に感じることはない	5	2%

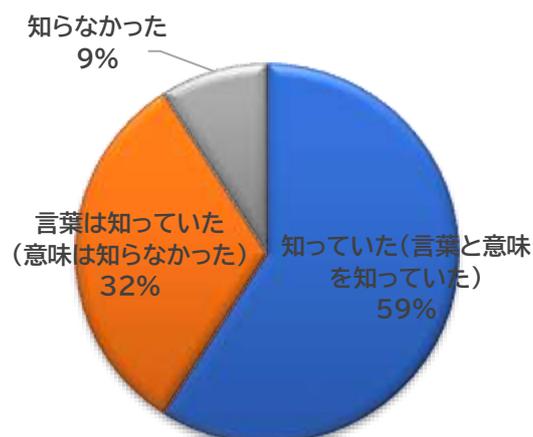
※回答者 276 名に対する割合

問6：あなたは、「脱炭素社会」という言葉とその意味について知っていますか。（1つ選択）

（補足説明）

国は、気温上昇を抑え、気候変動による影響を緩和していくため、2050年までに二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「脱炭素社会」の実現を目指すこととしています。

選択肢	回答	構成比
知っていた（言葉と意味を知っていた）	163	59%
言葉は知っていた（意味は知らなかった）	88	32%
知らなかった	25	9%
合計	276	100%

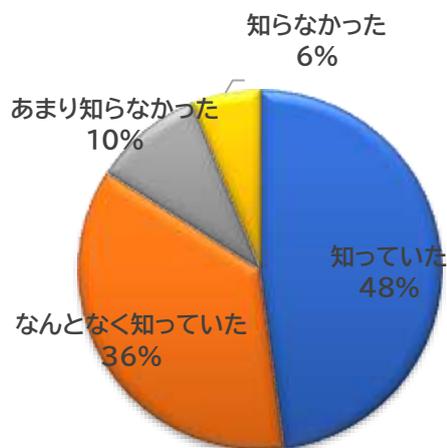


**問7：あなたは、地球温暖化を防止するために化石燃料の消費を減らすことが必要であることを知っていますか。（1つ選択）**

（補足説明）

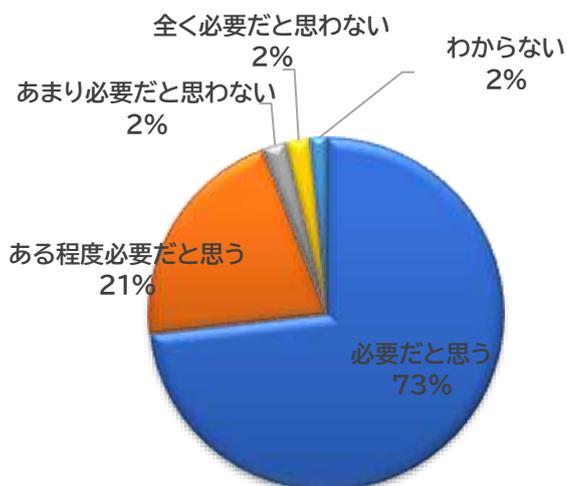
地球温暖化の原因は、温室効果ガス（二酸化炭素等）の排出が原因と言われており、温室効果ガスの排出量を削減するには、化石燃料（ガソリン、灯油、プロパンガスなど）の消費量を減らすことが必要です。

選択肢	回答	構成比
知っていた	132	48%
なんとなく知っていた	100	36%
あまり知らなかった	27	10%
知らなかった	17	6%
合計	276	100%



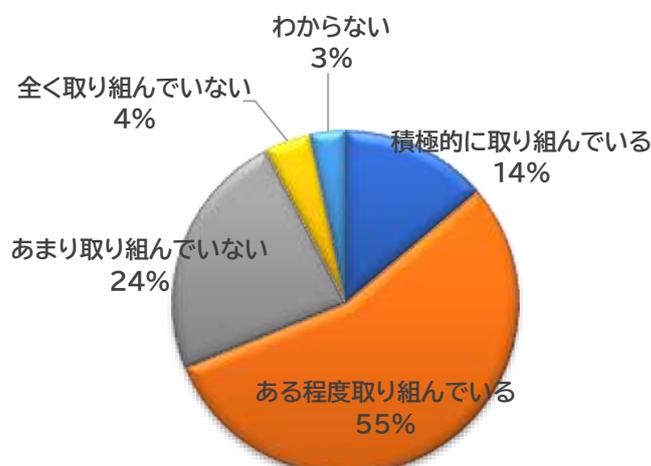
**問8：あなたは、地球温暖化対策は必要だと思いますか。（1つ選択）**

選択肢	回答	構成比
必要だと思う	202	73%
ある程度必要だと思う	58	21%
あまり必要だと思わない	6	2%
全く必要だと思わない	6	2%
わからない	4	2%
合計	276	100%



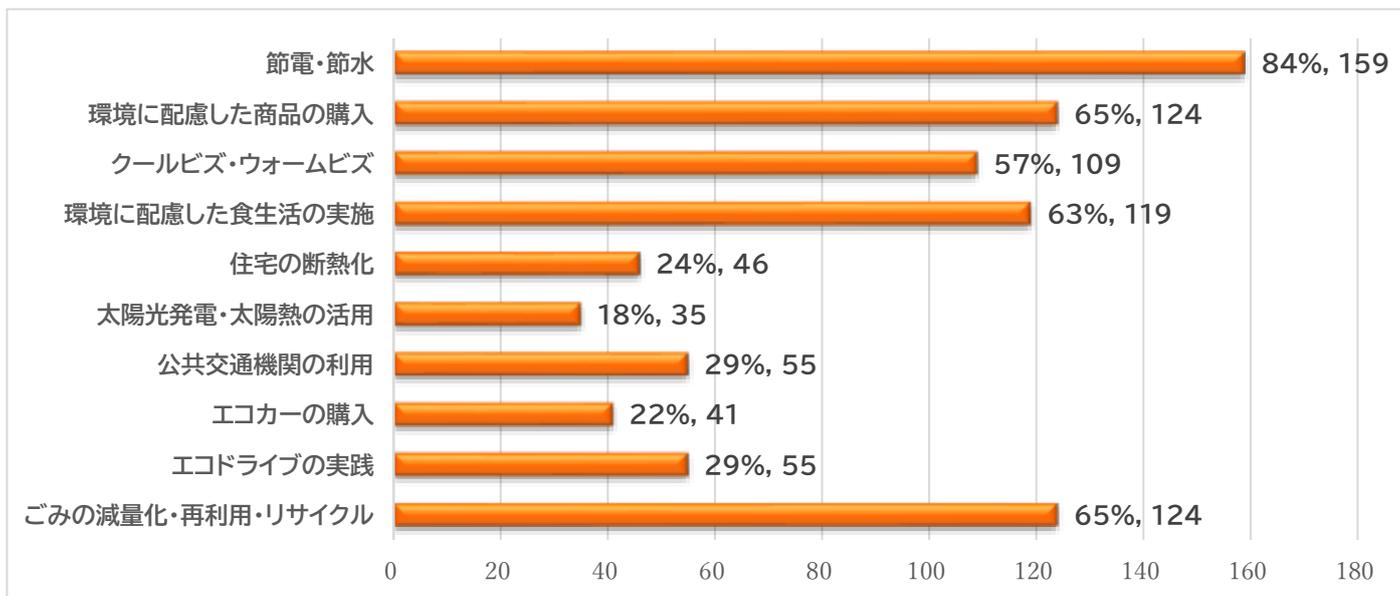
**問9：あなたは、現在、地球温暖化対策に取り組んでいますか。（1つ選択）**

選択肢	回答	構成比
積極的に取り組んでいる	38	14%
ある程度取り組んでいる	152	55%
あまり取り組んでいない	65	24%
全く取り組んでいない	12	4%
わからない	9	3%
合計	276	100%



## 問 10：あなたは、地球温暖化対策としてどのような取組をしていますか。（複数選択可）

（問9で「積極的に取り組んでいる」、「ある程度取り組んでいる」と回答した190名が回答）

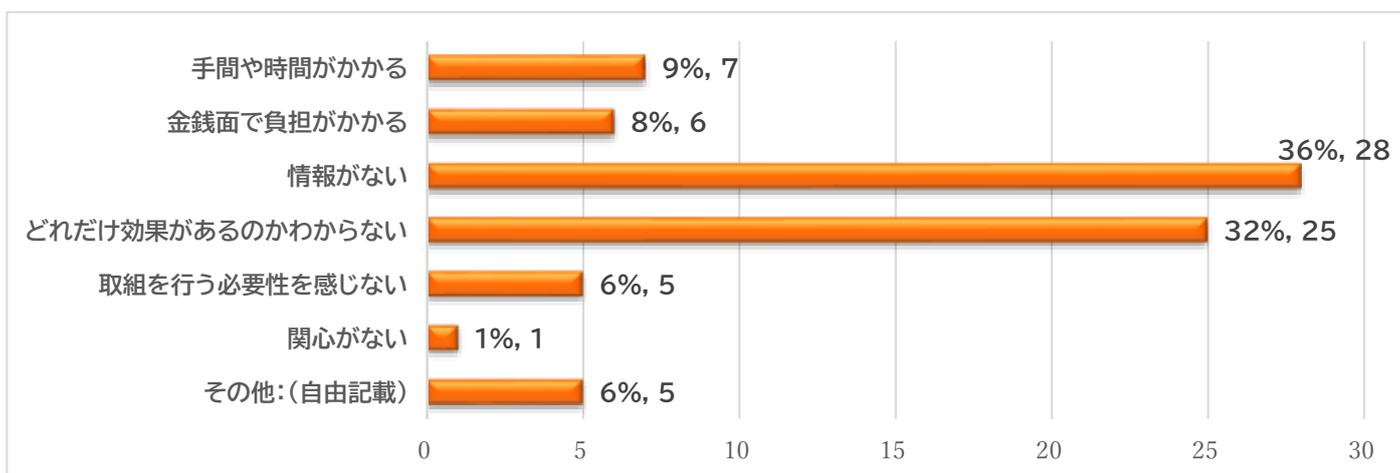


選択肢	回答	割合※
節電・節水	159	84%
環境に配慮した商品の購入（詰替商品、簡易包装製品、省エネ型家電、サステナブルファッションなど）	124	65%
クールビズ・ウォームビズ（夏場の軽装、冬場の厚着などによる空調負荷の低減など）	109	57%
環境に配慮した食生活の実施（食材の地産地消、エコ・クッキング、食べ残しをしない（食べきり）など）	119	63%
住宅の断熱化（二重窓や断熱材などを活用し無駄な熱の出入りを減らすなど）	46	24%
太陽光発電・太陽熱の活用	35	18%
公共交通機関の利用	55	29%
エコカーの購入	41	22%
エコドライブの実践（ふんわりアクセル、アイドリングの削減など）	55	29%
ごみの減量化・再利用・リサイクル（ごみの分別・堆肥化、紙パックや食品トレイの回収など）	124	65%

※回答者190名に対する割合

**問 11：地球温暖化対策に取り組んでいない理由として、最も当てはまるものを次の中から選択してください。（1つ選択）**

（問9で「あまり取り組んでいない」、「全く取り組んでいない」と回答した77名が回答）



選択肢	回答	割合*
手間や時間がかかる	7	9%
金銭面で負担がかかる	6	8%
情報がない（実施したい、又は、実施できる取組が見つからない）	28	36%
どれだけ効果があるのかわからない	25	32%
取組を行う必要性を感じない	5	6%
関心がない	1	1%
その他：（自由記載）	5	6%

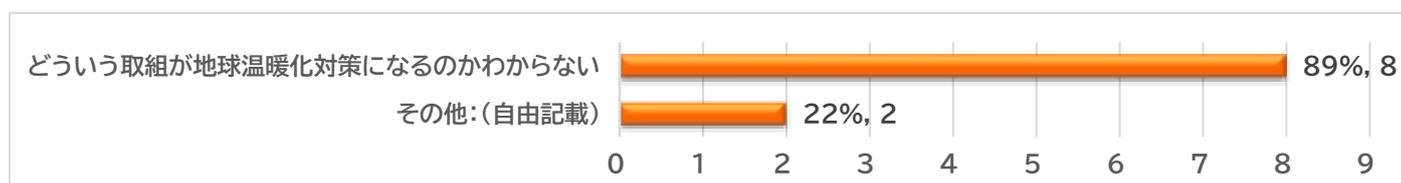
※回答者77名に対する割合

<その他の主な回答>

- ・電気の使用を抑えたくても熱中症が不安でできない
- ・バス通勤は不便で自家用車を使いたい

**問 12：地球温暖化対策がわからない理由は何ですか。（複数選択可）**

（問9で「わからない」と回答した9名が回答）



選択肢	回答	割合*
どういう取組が地球温暖化対策になるのかわからない	8	89%
その他：（自由記載）	2	22%

※回答者9名に対する割合

<その他の主な回答>

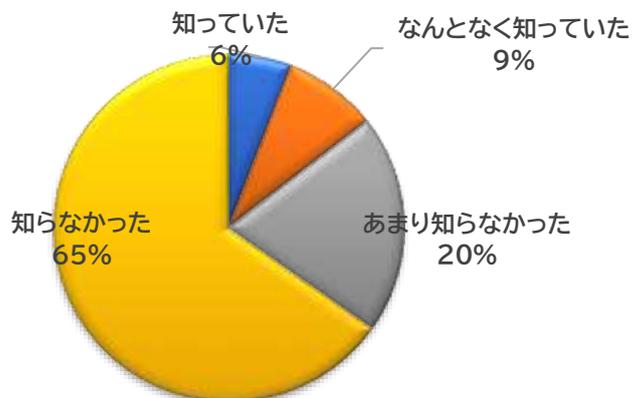
- ・地球温暖化が人為的なものでどの程度影響しているのか、因果関係がはっきり分かっていないのではないか

### 問 13：あなたは、「デコ活」を知っていますか。(1つ選択)

(補足説明)

「デコ活」は、2050年カーボンニュートラル、2030年度削減目標の実現に向け、国が提唱する国民の行動変容を強力に後押しするために2022年10月に発足した新しい国民運動です。

選択肢	回答	構成比
知っていた	16	6%
なんとなく知っていた	24	9%
あまり知らなかった	56	20%
知らなかった	180	65%
合計	276	100%

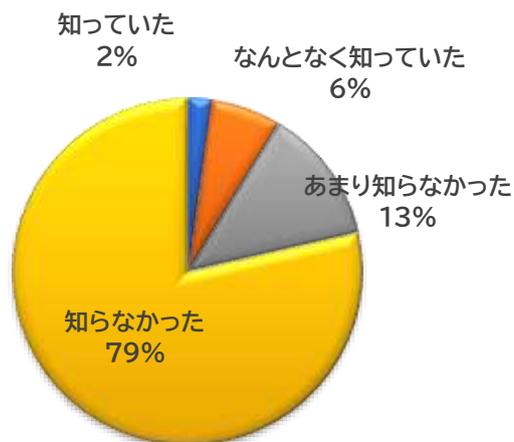


### 問 14：あなたは、「ながさきデコ活 ゼロカーボンアクション 12」を知っていますか。(1つ選択)

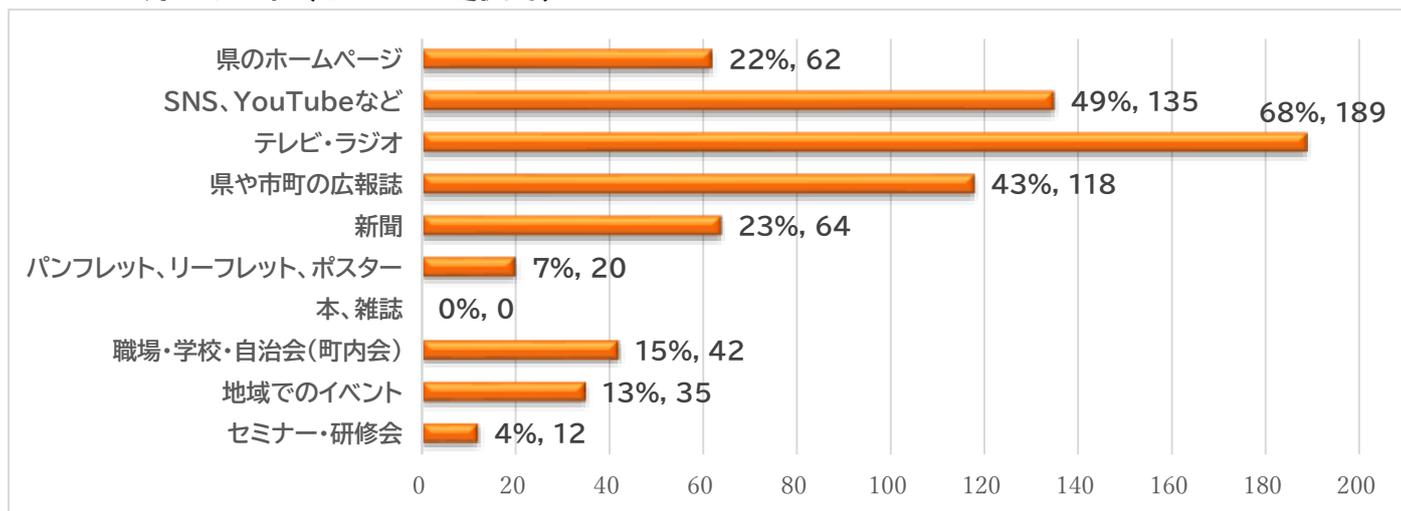
(補足説明)

県は、地球温暖化を防止し、脱炭素・資源循環型ライフスタイルへの転換を進めるため、県民の皆様が今すぐ取り組める環境にやさしい行動のアクションとして、「ながさきデコ活 ゼロカーボンアクション 12」を9月から開始しました。

選択肢	回答	構成比
知っていた	6	2%
なんとなく知っていた	18	6%
あまり知らなかった	35	13%
知らなかった	217	79%
合計	276	100%



問 15：国や県の取り組み、地球温暖化対策を多くの人に認識してもらうために有効な媒体や機会は何ですか。（3つまで選択可）



選択肢	回答	割合*
県のホームページ	62	22%
SNS、YouTube など	135	49%
テレビ・ラジオ	189	68%
県や市町の広報誌	118	43%
新聞	64	23%
パンフレット、リーフレット、ポスター	20	7%
本、雑誌	0	0%
職場・学校・自治会（町内会）	42	15%
地域でのイベント	35	13%
セミナー・研修会	12	4%

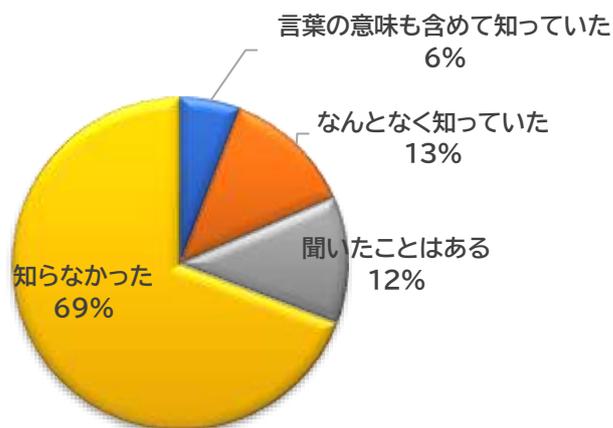
※回答者 276 名に対する割合

問 16：気候変動の影響を予防・軽減するための対策を「適応策」と言うことを知っていますか。（1つ選択）

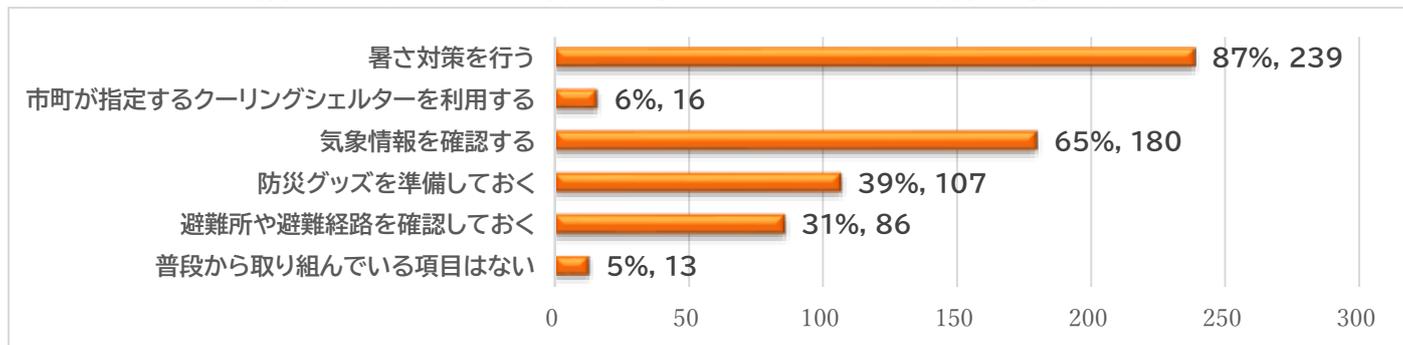
（補足説明）

温室効果ガスの排出を抑制する対策を最大限行っても、ある程度の気候変動は避けることができないと言われています。そのため、気候変動による熱中症の増加や大規模災害に備え、被害を軽減するための対策が必要であり、これらの対策は「適応策」と言われ、問 17 の選択肢にあるような取組が挙げられます。

選択肢	回答	構成比
言葉の意味も含めて知っていた	16	6%
なんとなく知っていた	35	13%
聞いたことはある	34	12%
知らなかった	191	69%
合計	276	100%



問 17：あなたが普段取り組んでいる項目を選択してください。(複数選択可)

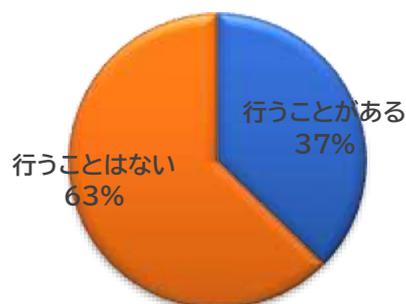


選択肢	回答	割合*
暑さ対策を行う	239	87%
市町が指定するクーリングシェルターを利用する	16	6%
気象情報を確認する	180	65%
防災グッズを準備しておく	107	39%
避難所や避難経路を確認しておく	86	31%
普段から取り組んでいる項目はない	13	5%

※回答者 276 名に対する割合

問 18：あなたは夏場に炎天下での運動や空調設備のない環境での作業を行うことがありますか。(1つ選択)

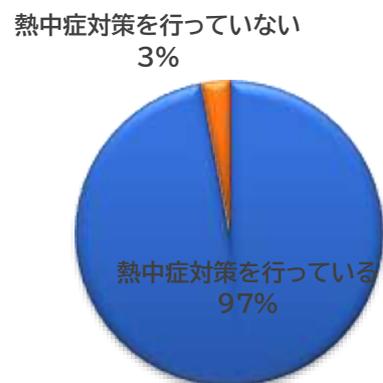
選択肢	回答	構成比
行うことがある	103	37%
行うことはない	173	63%
合計	276	100%



問 19：夏場に炎天下での運動や空調設備のない環境での作業を行う場合、熱中症対策を行っていますか。(1つ選択)

(問 18 で「行うことがある」と回答した 103 名が回答)

選択肢	回答	構成比
熱中症対策を行っている (こまめな水分補給や塩分補給、適度な休憩)	100	97%
熱中症対策を行っていない	3	3%
合計	103	100%

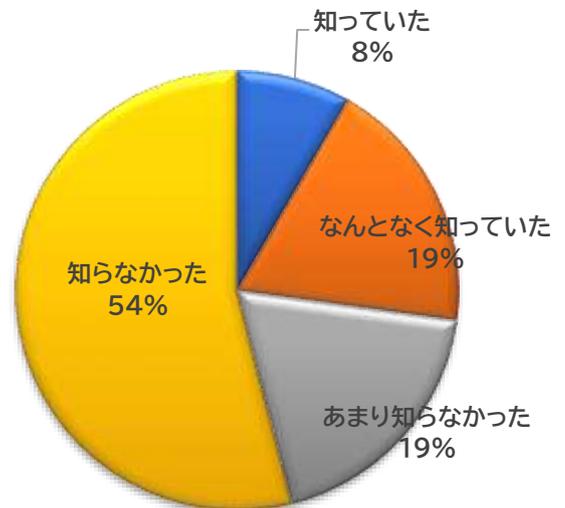


問 20：農作物の品種改良や高い堤防の設置なども「適応策」であることを知っていますか。  
(1つ選択)

(補足説明)

農作物の高温耐性品種改良や温暖化による海面上昇に対応するための高い堤防の設置なども「適応策」に該当します。

選択肢	回答	構成比
知っていた	23	8%
なんとなく知っていた	52	19%
あまり知らなかった	52	19%
知らなかった	149	54%
合計	276	100%



今後の参考にさせていただきます。ありがとうございました。